

医学部の教育目標及び3つのポリシーについて

【学部目的】

医学部は、生命科学の基礎及び臨床分野の教育・研究、医療現場における実践教育を通して幅広い視野と探求力を教授し、医学・医療の進歩に対する貢献や地域医療の実践を通じて国民の健康を守るという社会の要請に対して、豊かな人間性に基づき倫理観、責任感、使命感を持って対応できる医療人の育成を目的としています。

【教育目標】

山形大学の教育目標を踏まえ、教育プログラム（医学）では、地域に根ざした国際的視野を持ち、知識や技能を自ら学び、考え、活用し、さらに発展させる能力を涵養し、生命の尊厳を理解し、高い倫理観を身に付け、多様な人生観を受け入れることができる人間性豊かな、高いコミュニケーション能力を持つ医療人を育てることを目標としています。

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

山形大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、医学部では医学・医療の今後の発展を担う優秀な医師、医学研究者、看護職者を育成する観点から、基盤共通教育及び学部の専門教育を通じて、以下に示す知識・態度・能力を獲得した学生に「学士（医学）」及び「学士（看護学）」のいずれかの学位を授与します。

1. 豊かな人間性と社会性

- （1） 良き医療人及び研究者としての素養を培うため、文化や社会、自然も含めた幅広い学問分野に関心を持ち、自主的、自律的に学び続けることができる。
- （2） 医療人として求められる、生命の尊厳への理解と、医学的課題に立ち向かおうとする意欲（Challenge）、医学研究や医療に従事し社会貢献（Contribution）するために不可欠な高い倫理観と使命感を持っている。
- （3） 地域医療の重要性を含め医療・医学に関する社会的なニーズや課題に関心を持ち、それらに対する自己の意見を持ち、筋道を立てて説明することができる。
- （4） 社会の一員として円滑な協働（Cooperation）を行う上で必要な意思疎通及び相互理解・尊重の重要性を理解している。

2. 幅広い教養と汎用的技能

- （1） 医学や医療に関する社会の仕組み、生活環境、健康や医療を取り巻く様々な課題について学び、それを基に判断し、行動できる。
- （2） 国内外における社会と人々の生活の変化に関心を持ち、膨大な情報の中から正しい情報を取捨選択し、現代医療の役割、機能、責務を理解できる。
- （3） 多職種が関わる医療現場で活躍できるよう互いに連携・協働するためのコミュニケーション能力を持っている。

3. 専門分野の知識と技能

- (1) 医学全体の基盤となる基礎医学について、臨床医学の理解と問題解決に繋がる専門的な基礎知識を持っている。
- (2) 人体各臓器にみられる疾病や創傷の原因や仕組み、またそれらの診断・看護・治療を理解している。
- (3) 実際の診療・看護に必要な基本的診断能力や鑑別診断能力を身に付けている。
- (4) チーム医療、医療安全、患者中心の視点、コミュニケーション能力など、医療人としての職責や普遍に求められる知識と技能を身に付けている。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

山形大学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、医学部学生が体系的かつ主体的に学習できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1. 教育課程の編成・実施等

- (1) 医学部のカリキュラム編成では、モデル・コア・カリキュラム、国家試験出題基準、医学教育分野別評価基準など、国際標準に準拠した体系性・順次性のある授業科目を配置する。
- (2) 基盤共通教育においては、豊かな人間性と社会力、高い倫理観を醸成する科目の習得と、基礎医学の一部を学び、専門課程への円滑な移行を目的としたカリキュラムを編成する。
- (3) 専門教育においては、生命科学の基盤となる基礎医学、医学や医療に関する社会の仕組みや生活環境を学ぶ社会医学、様々な疾病の原因や診断、治療を学ぶ臨床医学、あるいは様々な健康問題に対処する看護学に関するカリキュラムを編成する。
- (4) 上記科目における基礎知識を習得した後、地域病院と密接に連携した臨床実習での実践的な医療への参加を通じて、基本的診断能力や鑑別診断能力、他者とのコミュニケーション能力などの習得を目的としたカリキュラムを編成する。

2. 教育方法

- (1) 高等学校教育との接続と専門知識習得の基礎となる講義を、基盤共通教育において展開する。
- (2) 生命科学領域の知識習得を促す講義、実験医学的方法論の習得を促す実習を、基礎医学科目において展開する。
- (3) 疾病の病態生理の理解を促す系統講義及び個々の患者を通した様々な疾病の理解を深める臨床実習を、臨床医学科目において展開する。
- (4) 基本的診断能力や類似疾患との鑑別診断能力及び看護の実践方法の学習するため、学内及び地域病院と密接に連携した臨床実習を展開する。

3. 教育評価

- (1) 学習成果の評価においては、定期的に教育カリキュラムを点検し、明確な成績評価基準を策定する。
- (2) 臨床実習開始にあたり、これまで学習した医学的知識を総合的かつ客観的に評価するとともに、患者接遇の態度や臨床技能などの実践力を測定するために、客観的臨床技能試験など

(CBT 及び Primary OSCE) や客観的看護実践能力試験により患者接遇の態度や臨床技能などの実践力を評価する。

【入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

医学部には、医学科と看護学科の2学科があります。

医学科は、新設医学部・医科大学の一期校として昭和48年に地域医療の中核として設立され、以来、「広い視野を持ち、自ら学び、考え、創造し、それらを生涯にわたって発展させることのできる医師及び医学研究者を養成する」という建学の精神に基づき、すでに4,275人の卒業生を世に送り出しています。

看護学科は、平成5年に東北・北海道地区ではじめての国立4年制大学として設立されました。時代の要請に柔軟に対応できる知識・技術と豊かな人間性を備えた看護職者を養成し、すでに1,508人の卒業生を医療人及び専門的研究者として世に送り出しています。

医学部の学生は卒業後、地域医療の第一線をはじめとして、日本各地の様々な医療機関で、また国際的にも世界各地の研究機関で広く活躍しています。今後さらに地域に根ざし世界で活躍する医療人を育成するため、医学部は以下の「求める学生像」に記された資質を持っている人を受け入れます。

1. 求める学生像（3つのC）

Challenge : 科学的研究心が強く、現代の保健医療が抱える諸問題の解決に自ら考え、粘り強い学習意欲を持って挑戦できる人

Cooperation : 医療人に求められる高度な倫理観と豊かな人間性を備えていることに加え、医療活動がチームで行われることをよく理解して共に働く人々と良好な人間関係を形成できる人

Contribution : 世界水準の医学看護学を背景に、高度な地域医療の実践を通じて人類の健康福祉に貢献する意欲をもつ人

2. 入学者選抜の基本方針

「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するために、医学科および看護学科では一般選抜入学試験と推薦選抜入学試験を実施します。入学試験では、以下に示す医学科および看護学科のそれぞれのアドミッション・ポリシーに従って、多様な観点から受験者の学力や資質を評価します。

医学科

「人間性豊かな、考える医師の養成」を建学の精神として、綿密なカリキュラムに基づく厳格な医学教育が行われています。

ヒトゲノム解析など、めざましい先端的な医学研究の進歩を柔軟に医学教育に反映させたカリキュラムの編成により、最新の医学知識を学ぶことができます。達成可能な現実的な目標を設定し、問題解決型の医師の養成をめざした臨床医学教育を実施するためのカリキュラムがきめ細かく編成されています。

卒業生の多くは地域及び日本各地の医療機関で臨床医として医療活動に従事していますが、医学研究者として大学・研究所等で活躍している人も数多くいます。

医学教育に加えて、附属病院や地域の病院における診療を通じた地域医療への貢献とともに、様々な国際的な医学研究への参画と民間との共同研究も行われています。

このように医学科では、最先端の医療・医学研究の実践を背景に地域に根ざして世界にはばたく医師・医学者の育成を行っています。このような医学科の求める学生像及び入学者選抜方法は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・生物学・医科学分野に対する広い興味を持ち、科学的探求心が強く、旺盛で持続的な学習意欲を持つ人
- ・心身ともに健康で、柔軟性に富み、倫理性の高い人
- ・協同作業を行う人々と円滑な人間関係を形成できる高いコミュニケーション能力を持つ人
- ・地域医療を含め、幅広く医療に貢献することへの志と強い使命感を持つ人

◆入学者選抜方法

(1) 一般入試（前期日程）

大学入試センター試験では、5教科7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では、国語、英語、数学、理科（物理・化学・生物から2科目を選択）を課し、本学科の修学に必要なより高い学力を検査します。面接では論理的な思考能力とともにコミュニケーション能力を含む医療人としての適性を総合的に評価します。山形県定着枠については、面接及び「志望の動機」において、山形県内で医療に従事する強い意志も評価します。

(2) 一般入試（後期日程）

大学入試センター試験では、5教科7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査の面接では論理的な思考能力とともにコミュニケーション能力を含む医療人としての適性を総合的に評価します。

(3) 推薦入試Ⅱ

特に優れた学習成績や人間性をもとに高等学校長が推薦する高等学校卒業見込み者に対して選抜を行います。大学入試センター試験では、5教科7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査の面接では論理的な思考能力とともにコミュニケーション能力を含む医療人としての適性を総合的に評価します。

看護学科

生命の尊厳と人権の擁護を重んずる倫理観を基盤とし、誠実で豊かな人間性を備えた看護師・保健師・助産師を育成する看護学教育を行っています。

保健・医療・福祉に関わる人々と協働して、根拠に基づく安全な看護を提供できる人材を育成するためのカリキュラムを編成しています。

社会と人々の生活の変化を敏感に捉え、看護の役割・機能・責務について必要に応じた変革を実行できる看護職者を育成することを教育理念としています。

卒業生の多くは地域及び日本各地の医療機関で看護師、保健師、あるいは助産師として活躍しています。また、教育研究者として大学で活躍している人や海外で活動する人も増加しています。

このように看護学科では、社会からの多様なニーズに応え、人々の健康と福祉の向上に貢献できる看護職・看護教育研究者の育成を行っています。このような看護学科の求める学生像及び入学者選抜方法は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・人々の健康と福祉に強い関心を持ち、科学的に追及する姿勢と持続的な学習意欲を持つ人
- ・心身ともに健康で、誠実で高い倫理性を持つ人
- ・他人への思いやりと円滑な人間関係を形成できるコミュニケーション能力を持つ人
- ・看護職として保健・医療・福祉に貢献することへの強い意志を持つ人

◆入学者選抜方法

(1) 一般入試（前期日程）

大学入試センター試験では、5教科6科目又は5教科7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査では、英語を課し、本学科の修学に必要なより高い学力を検査します。面接では論理的な思考能力とともにコミュニケーション能力を含む看護職としての適性を総合的に評価します。

(2) 一般入試（後期日程）

大学入試センター試験では、5教科6科目又は5教科7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査の面接では論理的な思考能力とともにコミュニケーション能力を含む看護職としての適性を総合的に評価します。

(3) 推薦入試Ⅱ

特に優れた学習成績や人間性をもとに高等学校長が推薦する高等学校卒業見込み者に対して選抜を行います。大学入試センター試験では、5教科6科目又は5教科7科目の試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査の面接では論理的な思考能力とともにコミュニケーション能力を含む看護職としての適性を総合的に評価します。